

田植え体験学習レポ

佐竹 樹之

準備を終えた田圃で、児童たちを待つ間、初夏の日差しはあるものの、時折吹く涼しい風に心身共に癒されながら会員同士で歓談などしていました。

10時頃、佐保台小学校五年生30名が、先生引率の元、到着しました。田んぼの横で、先ず児童たち代表の挨拶があり、次いで千載会長の「今日植えた苗は、10月頃には立派な稲穂に育ち、稲刈りをします。楽しみにしておいてください」との、挨拶がありました。

10時15分頃、鈴木顧問から、資料を使いながら、「植える時の苗の本数」「植える深さ」「植える位置など」の説明があり、児童たちは、静かに聴いていました。その後、たすき担当者が、児童一人一人にたすき掛けをし、はだしになりました。



10時20分頃、北側の田んぼに男子、南側の田んぼに女子が、それぞれスタート位置に移動しました。二枚の田んぼには、予め東西方向に白い紐が90cm間隔で張られています。児童たちは、その紐の間に一人ずつ入り、西側から植え始めました。田んぼの北側と南側の畦に、30cm間隔で赤い印が付いたロープを引っ張る担当者が配置され、先ず田んぼの西端から30cm東にそのロープを張り、一列目の苗を児童一人が、二本の白い紐の間に有る赤い印に3か所ずつ植えていきます。続いて更に30cm東にロープを移動して二列目を、更には三列目と

いう具合に、次々と緑の早苗が東へと広がっていきました。児童たちの中には、苗を5本以上持つ人、指で地面に差し込まず、置くだけの人もいました。そうした場合は、見守り担当者が適宜アドバイスをして、順調に進められました。最初は、ぎこちなく植えていた児童も、進むごとに慣れてきて、表情がどんどん変わっていき、はだして田植えをするのが楽しそうでした。



11時頃、少し遅れて女子も東端まで植え終わり、畦に上がった児童から「また田植えしたい」との声を聞いた時は、こうした田植えが出来て本当に良かったと思いました。その後で、無事に田植えを終えた感謝と豊作を願って、田んぼの神様に花を手向けました。

11時10分頃、児童たちは洗い場で、泥などを洗い流し、到着時のように集合しました。児童たちへのお土産として「桑の実」を差し上げると、「おいしかったです」と大変喜んでいました。鈴木顧問から「皆さん一人一人の感想は、後日拝見出来ると聞いていますので、大変楽しみにしています」と挨拶がありました。又、児童からは、こうして活動が出来たことへの感謝の挨拶がありました。

11時20分頃、児童たち全員が、事故なく活動を終えて、先生の引率の元、学校への帰路に就きました。児童たちが居なくなった田んぼを振り返ると、緑の早苗たちが起立し、その影が水面に映り、一気に初夏の風情に変わりました。こうして、今年も皆さんのお蔭で無事に田植えを終えることが出来ました。皆さん有難うございました。